

「認知言語類型論」入門

ーイノベーターとして生きる高校生・大学生・社会人の為にー

はじめに

こんにちは。ぼくの名前は、中野 研一郎 といいます。目が合ってしまった。「いや、目なんか合っていない」と言われる方もあるかもしれません。でも、こうしてこのページを開いてもらっているのは、みなさんがこの本と目を合わせてくださったからだと思います。本に想いを込めていても、みなさんの目に留まらなければ、コミュニケーションは始まりませんから。手に取りページを開いていただいたこと、お礼を申し上げます。日本語においては、こうした出会いも「縁起(えんぎ)」と呼んで良いと思います。

ただこの「縁起」というものは、残念ながら誰にでも訪れるものではありません。「縁起」を呼び寄せるためには、ある種生きていく上で必須の、嗅ぎ分ける力みたいなものが必要だからです。ここに書かれていることは本物だとか、これを書いているひとは信用できるとか、大事なことを嗅ぎ分けられる直感または感性のようなもの、それが生きていく上で必須的に必要となるのです。そういった嗅ぎ分けの直感や感性が働かなければ、何かに出会ったとしても、「縁起」は生じません。

残念ながら現代を生きているぼく達は、この嗅ぎ分ける直感や感性を著しく弱まらせてしまいました。その原因は、直感や感性と対の関係となっている知性というものを、衰退させてしまったことに関係があると思っています。直感や感性というのは、何もしなくても生まれながらに備わっているものではないのです。ぼくが考え違いをしているのかも知れませんが、どのレベルの知性や教養を備えているかで、そのひとの持つ直感や感性のレベルも異なると思うのです。履き違えて欲しくないのですが、知性や教養というものは、本質的に学歴とは関係がありません。むしろ本質を見抜く知性や教養を持たない人ほど、自身を正当化するために、学歴を盾にする傾向があります。知性とか教養というのは、本来「生きる」ことで深められるべき知見や知恵のことを指すと思うのです。この知性・教養の衰退の結果、日本では学校・会社・学会・共同体といったあらゆる社会相において、紛(まが)い物と呼んでも差し支えないような言表(げんぴょう)や人物が幅を利かせています。あるいは、幅を利かせてきました(このことは、べつに日本だけの問題とは思いませんが...)。そういった社会を少しでも変えたいと願うならば、従来の思考の枠組み(パラダイム)で物事を観察・分析・発想していてもだめだと思うのです。パラダイム・シフト(思考の枠組みの変更)をもたらせるだけの、イノベティブな思考法を身に付ける必要があります。

この本の目的は、認知言語類型論という学問分野への入門の形を介して、みなさんにイノベティブな思考とはどのようなものであって、それをどうすれば身に付けられるのかを体感してもらうことにあります。つまり、この本を読む前と読み終えた後では、見える世界が異なること(パラダイム・シフト)を体感してもらうために、ぼくはみなさんの水先案内人役を務めたいと思っています。

さて、少しぼく自身の紹介をさせてください。名前は 中野 研一郎 といいます。今現在のところ、ある大学の短期大学部において総合英語・英語文法や英語学概論の授業を、大学院において英語教授法を通じた学力の測定・評価法等の授業を担当しています。こうした授業を担当している理由は、自身が京都府の高校において長らく英語教員として働いてきたことと、一時期大学院において外国語教授法を専攻していたことにあります。ただ少し考えるところがあり、外国語教授法を専攻する大学院を辞めて、認知言

語学と呼ばれる学問分野に移りました。認知言語学と呼ばれる学問分野は、まだみなさんにとって馴染みが薄いものかも知れません。中野はその認知言語学という学問分野の、特に認知言語学類型論という領域において研究を行ってきました。認知言語類型論という学問領域は今現在生まれつつある学問領域で、世界中の言語がなぜその言語特有の文法を有しているのかを解明・説明することを目的としています。なかなか壮大な、ほとんど不可能と思えるようなことを目的にしていると思われるかも知れませんね。ただ、ちょっと見通しがあって、徐々に判ってもらえるかも知れませんが、その研究デザインを構築できると考えているのです。そう考えている理由は、中野自身が日本人であり、日本語を英語の論理ではなく、日本語の論理で解明できたと考えているからです。何のことかさっぱりわかりませんよね。ただこの段階でも、ここに書かれていることは本物かどうか、書いている著者が偽者(にせもの)かどうかは、みなさんの直感が働いているのではないのでしょうか。こいつは偽者と直感されたならば、みなさんはこの本を閉じられるでしょう。逆にこの本には何かがあると直感されるならば、お付き合いいただけるものと考えます。願っているのは、この本をお読みいただいた後に、みなさんが今現在見ている世界を違った目で観られることです。

この本の読み進め方なのですが、各章ごとにお題があります。そのお題とは、今までの言語学者達が解明できていない言語学上の難問のようなものです。「えっ、言語学者が解明できていない言語学上の難問...」、急に読む気が失ってしまったかも知れませんが、そうなんです、この本の目的はみなさんにパラダイム・シフトを体感してもらうことで、イノベーションを引き起こす思考法を獲得してもらうことです。これまで当たり前だとされていることを述べていても仕方がないのです。今まで誰も解明できていなかったこと、この本でしたら、これまでのどの言語学者も解明・説明できなかった言語現象を、みなさん自身が解明・説明できることが、パラダイム・シフトを実体験することになります。また、それこそがイノベティブな思考の獲得に繋がることになるのです。ただし、心配は要りません。みなさんにとって必要となるものは、これまでの常識を前提にしないという頭の柔らかさと、納得できる説明を自分で見出すまでは、中野の解説なんか読まないという意地とか根性だけです。意地や根性って、今時流行(はや)らない言葉ですよ。でもこれ、結構大事だと思います。この本においてはみなさんの手間を省くために、問題を解く上での道具・材料はこちらで準備していきます。ただしそれらの道具・材料を用いても、合理的な説明に至ることができるかどうかは、つまり、パラダイム・シフトを体感できるだけのブレイク・スルーをみなさんが起こせるかどうかは、最後みなさんの意地や根性に掛かっているのです。ぼく自身、ひとつの言語現象が生じる理由(認知言語学ではこれを「創発理由」とか「動機」と呼びます)を説明できたと得心できるまで、ほぼ半年間考え続けたことがありました。夢の中でも考えていることがありました。そしてある時急に、「ああっ、そうか」ってブレイク・スルーが生る瞬間があって、自身が急に上方に移動するのです。

話が変わってしまいましたが、キアヌ・リーブスという俳優が主演していた『マトリックス』って映画をみなさんにご存知でしょうか？ B級と評価されている映画かも知れませんが、多くの示唆に富んでいて、その第1話の終盤に主人公のネオはマトリックス世界のエージェントであるスミス達に銃で撃ち殺されます。ところがある契機によって、ネオは復活・再生するのです。その復活・再生したネオにとって、マトリックスの世界はそれまでに見えていた世界とは異なって見えるようになります。高速で流れる情報として世界が見えるようになるのです。それとちょうど同じような感覚を体感していただけるのではな

いかと考えています。ぼくもそうだったのですが、上に書いたように自身が急に上方に移動して、世界を俯瞰(ふかん)するような感覚に包まれます。

長くなりました。それでは、『マトリックス』の世界を主人公ネオとして生きてみてください。ただし主人公ネオとして生きるために、みなさん自身の説明を得るまでは、ぼくの解説を読まない意地または根性が要ることを、ちょっと覚えておいてくださいね。

第1章 英語の形容詞と日本語の形容詞は同じものか？

英語において形容詞は‘adjective’と呼ばれています。むしろ、英語の‘adjective’の日本語訳が「形容詞」になっています。それではまず、このページに「形容詞」の定義をご自分で、書いていただけるでしょうか？ 図書館で借りた本などに対しては論外ですが、本を活かすためには、自身で書き込みながら読み進めることも必要です。それでは、「形容詞」の定義を書いてみてください。

「形容詞」の定義

どうでしょう、書かれましたか？ 書くのが面倒臭く、手っ取り早く答えを知るために、ページを捲(めく)ったりしていませんか？ もしあなたが「学ぶ」こととは、答えを知ってそれを覚えることだと思っておられるようでしたら、残念ながらあなたはイノベティブ思考から最も遠くの地点にいると考えなければなりません。イノベーター(革新者)には成れないのです。その理由は、「学び」を商取引活動と同水準で捉えているからです。「学び」を商取引と同じ水準で考えているひとのセリフは決まっています。「これってテストに出るんですか？」、「テストで点数を取るための、傾向と対策を教えてください」、「勉強の仕方がわからない」、「これを覚えて何の役に立つのですか？」等です。

こういった科白(セリフ)は、自身の「学修努力」を「貨幣」、テストの点数や成績等の「学修結果」を「商品」と捉える発想(パラダイム)から生まれています。「学修努力」が「貨幣」で「学修結果」が「商品」だと捉えている場合、次に続く発想はいかに「値引き」させるかになります。つまり、いかに少ない「学修努力」でいかに良い「学修結果(テストの点・成績)」が取れるか(現在のアメリカの大統領の最も好きな言葉である「取引(deal)」)が問題となるのです。「学修」が商取引のパラダイムで捉えられた場合、商取引の勝者は「学修者(消費者)」側でしょう。なぜならば、気に入らない場合「学修しなければ(買わなければ)良い」からです。商取引の発想による最強の学修者(消費者)行動は、学修者全員(消費者全員)で学修(購入)しないことです。この戦略、「学修してもらえない(買ってもらえない)」という戦略が採られると、「教える側(売り手側)」は「学修到達目標(定価)」を下げ続ける(ディスカウントし続ける)しかありません。かくして現在の教育現場は、果ての無いデフレスパイラルに落ち込んでいるのが現状です。果てのないディスカウント合戦が続き、入試科目は7科目から5科目に、5科目から3科目・2科目・1科目にまで減り、果てには入試の解答用紙に名前を書いて(場合によっては入試を受けなくても)、入学金を納めさえすれば入学できる大学も現れます。また、「TOEIC 対策-点数保証 6ヶ月で600点以上、一年で850点以上へ」という文言が、このパラダイムにおいては有効な謳い文句になるでしょうし、それが「TOEIC 対策-点数保証 4ヶ月で600点以上、10ヶ月で850点以上へ」に変われば、さらに有効な謳い文句となるのです。「最安値(最小の学修努力)」での「物品購入(試験結果・単位)」という図式です。こうした観点は、内田樹先生の『下流志向 〈学ばない子どもたち 働かない若者たち〉』や

『街場の教育論』で詳しく述べられていましたから、読んでおくとても面白いと思います。高校で受験生を多く抱えるクラスを担当していたときは、ぼくはクラスの生徒達と読んでいました。

さて、申し訳ないのですが、この本においても「学び」を商取引のパラダイムで捉えることはありません。みなさんと deal(取引)することはありません。なぜならばこの本における「学び」とは、今見えている世界とは異なる世界が見える次元にまで飛翔すること(パラダイム・シフト)を指すからです。したがって、書いてみてくださいとお願いした場合、どのような形であっても実際に書いてもらわない限り、異なる次元へみなさんを飛翔させてあげることができないのです。もう一度お願いします。「形容詞」の定義をまだ書かれておられない場合は、書いてみてください。

ありがとうございました。おそらくみなさんは、「形容詞」とは、ひとや事物の性質・属性・状態を表すことば」等と書いてくださったのではないのでしょうか？ 事実、日本を代表する辞書のひとつ『大辞林』でも、「形容詞」は次のように定義されています。

「形容詞」

- ① 品詞の一。用言に属し、活用があり、終止形語尾が、口語では「い」、文語では「し」であるもの。事物の性質・状態または心情・感情などを表す。「早い」「楽しい」「あまねし」「うるわし」の類。活用は、口語では一種類であるが、文語にはク活用・シク活用の二種類がある。
- ② そのものの性質・状態・属性などを表す言葉。形容辞。

『大辞林』三省堂 第3版

念のために、英英辞書に書かれている 'adjective' の定義も見ておきましょう。

'adjective'

The simplest definition of an adjective is that it is a word that describes or clarifies a noun. Adjectives describe nouns by giving some information about an object's size, shape, age, color, origin or material.

形容詞のもっとも簡単な定義は、形容詞とは名詞を叙述または説明する語である。形容詞はある対象の大きさ、形、年齢(数)、色、発端または材質について情報を与えることで、名詞を叙述する。

YourDictionary

<http://grammar.yourdictionary.com/parts-of-speech/adjectives/what-is-an-adjective.html>

ほぼ同じような定義ですよね。何か気付かれた点がありましたか？ 特におかしいと思われる点がなければ、話を先に進めてみたいと思います。それではここでもう一つお願いなのですが、日本語の「形容詞」と英語の 'adjective' を、例えば「美しい-beautiful」等のように対の形にして、10対分書いていただけるでしょうか？ お願いします。

日本語「形容詞」-英語 'adjective' の10対書出し

きっと、

- (1) 楽しい－happy, 悲しい－sad, 騒がしい－noisy, 鬱陶(うつとう)しい－gloomy,
華々(はなばな)しい－glorious, 可愛らしい－lovely, 寂しい－lonely, 貧しい－poor, 新しい－new,
古めかしい－old-fashioned, 美しい－beautiful,
凄まじい－dreadful, 羨ましい－be envious of, 望ましい－desirable,
乏しい－scarce, 浅ましい－sordid, 荒々しい－boisterous,
初々(ういうい)しい－unspoiled, 恥ずかしい－be ashamed,
神々(こうごう)しい－divine, 女々(めめ)しい－unmanly, 雄々(おお)しい－virile,
待ち遠しい－wait impatiently, 厚かましい－shameless, 優しい－gentle,
青い－blue, 赤い－red, 白い－white, 黒い－black,
長い－long, 短い－short, 軽い－light, 重い－heavy, 寒い－cold, 暑い－hot,
強い－powerful, 弱い－feeble, 広い－broad, 狭い－narrow, 丸い－round,
四角い－square, 高い－high, 低い－low, 甘い－sweet,
綺麗な－beautiful, 健康な－healthy, 愉快的－pleasurable, 尊大な－arrogant,
豊富な－abundant, 賢明な－intelligent 等

が挙がっているのではないのでしょうか？ ここでお題です。みなさんが書かれた 10 対の「形容詞」－‘adjective’ と、ぼくが思いつくまま書き出した 50 対の「形容詞」－‘adjective’ を合わせて、そこから見抜けることを次の余白に書き出してみてください。

<見抜き①>